

コラム 74 — 「原爆を投下するまで日本を降伏させるな」

評論家鳥居民氏は著書である「原爆を投下するまで日本を降伏させるな」で、次のように述べています。

「1945年4月25日、トルーマン大統領は、マンハッタン計画『原爆開発秘密計画』の責任者・スチムソン陸軍長官から、はじめて『原爆』の詳細を知らされる。このときのトルーマンの認識としては、①ソ連は東ヨーロッパ・中国に勢力を拡大する。戦争終結後、アメリカは世界のリーダーとなるため、原爆こそソ連を震え上がらせる武器となる。②原爆を開発するために、20億ドルもの巨額の予算をつぎ込んでいる。この秘密は、議員及び国民に全く知らされていない。これを使わなければ、『税金の無駄遣い』と言われかねない。したがって、原爆を実践で使用し、その威力を示すことで『勝利のために、原爆は必要な兵器であること』を認識させなければならない。そして、トルーマンの思惑は、①いつ原爆が完成するか、②いつポツダム会談を開催するか、③いつソ連が対日参戦するか、であり、原爆の完成に合わせてポツダム会談を開催し、会談の席で原爆の完成を関係国に知らせる。さらに、ソ連が参戦すると日本は降伏するであろうから、ソ連の対日参戦前に、日本に原爆を落とさなければならぬと考えた。そして、ポツダム宣言は、最初の草案を変更し、共同署名国からソ連を削除すること及び第12項にあった「天皇の地位の保証」を削除するとともに、日本に対する最後通牒を意味する公式の外交文書とはせずに『宣伝文書』のような形で発表し、日本側が「黙殺」しやすいように作為した。すなわち、原爆を投下するまで、日本を降伏させてはならなかったのです。」